

KKR ブログ

2021年11月9日

KKR のクライメート・アクション戦略: リスクを軽減しチャンスを広げる

エリザベス・シーガー KKR サステナブル投資担当マネージング・ディレクター

(原文: <https://www.kkr.com/global-perspectives/kkr-blog/kkrs-climate-action-strategy>)

ESG 開示については、KKR における取り組みが過去 10 年でどのように進化してきたかを先日の [ブログ記事](#) で振り返りました。着実に進歩はしていますが、投資家、パートナー、株主、その他のステークホルダーに向けた情報開示についてはまだ改善の余地があることを認識しています。ですから、本日、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言に準じる形で当社独自のクライメート・アクション・レポート [Climate Action Report](#) 第 1 号 (当レポート) をお届けできることを大変嬉しく思っています。

KKR はグローバルに事業を展開する投資会社として低炭素経済へのトランジションをサポートする任務を負っています。このトランジションの推進にあたっては当社のようなプライベート・エクイティが特に大きく貢献できると考えています。

まず、当社には過去 10 年以上にわたり投資先企業の様々な環境改善に取り組んできた経験があります。KKR のようなプライベート・エクイティのビジネス・モデルは ESG の取り組み支援には非常に適していると言えます。当社では KKR キャップストーンなどの実務のエキスパートや ESG 専門家などのリソースを活用し、投資先企業が気候変動に焦点を当てた戦略を策定し執行するまでサポートしています。長年の経験から、投資先企業は互いに学び合うことで多大な恩恵を享受することができると思っています。その点において、当社は点と点を結びつけ、知識を共有させることに重要な役割を果たすことができるのです。さらに重要なことは、当社では投資先企業と伴走する期間が比較的長いことから、こうした取り組みにも長いスパンで取り組み、動向をモニタリングする時間があるのです。

例えば、2008 年に当社は環境保護基金と連携してグリーン・ポートフォリオ・プログラムを立ち上げました。このプログラムを通じて投資先企業の業務改善を支援し、最終的には環境と事業の両面において大きな成果が上がりました。さらに 2020 年に気候変動対策教育シリーズを立ち上げ、投資先企業に向けて気候変動リスクへの理解と管理に関する情報や専門家のアドバイスやリソースを提供しています。既に、気候変動リスクの評価、温室効果ガス排出量の測定、カーボン・オフセットについてのセッションを開催しました。これらの取り組みのやその他の事例に関しては当レポートでご覧いただけます。

二つ目のポイントは、KKR がクライメート・アクションに向けた投資ができるということです。例えば KKR の [グローバル・インパクト・ファンド](#) は、気候変動対策や持続可能な生活など地球規模の重大な 4 つの主要分野においてソリューションを提供する企業に投資しています。この投資戦略で注力するのは、気候変動や環境のインパクト、適応、緩和の管理やエネルギー・トランジションに関わる製品やサービスを提供する企業です。他のクライメート・アクションの例としてはインフラ投資があります。KKR は過去 10 年間にわたり再生可能エネルギーへの投資に積極的に取り組んでおり、同資産への投資総額は約 35 億ドル、総発電容量は 1300 万 kW 以上に達しています。

KKR

さらに KKR では、公正なるエネルギー・トランジションへの投資にも注力しています。クリーン・エネルギーへの移行を支援する一方で、今日の世界が順調に経済成長を続けるためには従来型エネルギーの供給も引き続き重要であることを認識するという立場です。移行期間においても利用される従来型のエネルギーに関しては、当社が責任ある担い手になることでより良い結果を生むことができると考えています。投資先企業と直接に連携して、それら企業が直面する気候変動リスクと機会など様々な課題に対する理解を深めると同時に、温室効果ガス排出量のより効果的なモニタリングと削減のためのプロジェクトの実施や再生可能エネルギーへの移行機会の特定などを支援しています。

取り組むべき課題はまだ沢山あります。今後、当社の投資プロセスにおいては気候変動への配慮を十分に組み込み、気候変動問題が投資先企業に与える影響についての理解を深め、当社の一部ファンドでは既にスタートしていますが、脱炭素化目標を設定することから学びを得ます。また、KKR では当社として全社的にネット・ゼロを信頼できる形で 2050 年までに達成するという目標を掲げており、そのために何ができるのかを見極めようとしています。現在、各戦略や資産クラスごとのインパクト評価等を行っており、近々情報共有ができると考えています。

クライメート・アクション・レポートおよびその他 ESG 開示情報は、[kkresg.com](https://www.kkresg.com) の [Resource Center](#) よりご覧いただけます。